

2014. 12. 17 (水)

出会いから希望へ

浅田 ^{ひさ} ^お 壽 男

はじめに

社会学部生の皆さん、おはようございます。私は今、打樋先生がご紹介くださいましたように、英語の担当者として2000年にこちらへ採用していただきました。英語のクラスは皆さんで承知のように、20数名から30数名の小さなクラスです。一般的には、ほとんどの学生の皆さんとは顔を合わせる機会がないまま、皆さんは卒業されていくという状況の中で、今回、打樋先生から「ぜひ希望について話をしてください」とご依頼を受けまして、何かの話はできるだろうと思って、お引き受けさせていただきました。非常に貴重な機会を頂きましたので、ありがたいと思ったわけです。けれども、いざどんな話をしようかと考える時になって、大変難しいテーマであることに気がつきまして、安請け合いを少し後悔もしました。

希望というテーマ

私自身が英語、それも文法が専門であるものですから、話をするにしても「希望」という日本語や、それに当たる英語について紹介するとか、あるいは日本語や英語の希望という言葉がどういう状況の下に使われるのか、

また、「選択制限」と言語学で言うのですが、どういう主語を取り、どういう目的語を取るかというようなことをお話するしかないかなと思いましたが、自分で考えてみても、つまらない話であることに気がつきました。

それでまた1週間、10日と悩みましたが、結局は、自分が今持つ希望を素直にお話しして、その中で皆さん一人一人に何かを考えてもらえればもう十分ではないかと思っ、今この場にいさせております。

出会いのうれしさ

自分の希望をお話する前に、かなり前置きが必要です。一般的に言えば人との出会いになります。誰もが経験するように、毎日毎日いろいろな人と出会っているわけですが、今まで気が付かなかったけれど、その出会いがいかに大切か、またうれしい事なのかということを、ある時に気がつき、それが結果として、今の自分の希望に結びついているのです。

カナダでの思い出

回りくどい話ですが、その出会いの1つをお話したいと思います。今から4年前

にカナダのトロントに留学する機会を頂きました。私がカナダに行ったのは、もちろん英語の研究のためでした。留学先のヨーク大学では立派な研究室まで用意していただいて、研究はどんどん進みました。でもお話は、大学での研究とは別のことです。カナダにはフランス語圏があります。カナダの2カ国語政策は、皆さんもよく聞いていることと思います。場所はケベック州ですが、そこではフランス語のみが公用語とされていますので、街中、看板を見ても道路標識を見ても、みなフランス語です。そこで、英語の教員として、実際はどの程度、英語が使われているのかなということに興味があり、3月の終わりにカナダに行かせていただいて、落ち着き次第、ケベック州に行きたかったのです。

4月早々に研究調査という目的で Quebec City、つまりケベック市の方に旅行しました。トロントから飛行機で行くのが一番早いのですが、やはりカナダの鉄道を体験してみたいという気持ちがあり、汽車でトロントを出発しましたが、Quebec Cityの駅に着くのに10時間かかります。しかも途中のモントリオールで約1時間乗り換えのための時間待ちがあります。

モントリオール駅構内のカフェ 「ダーム・ナチュール」で

実は初めて Quebec City に行く途中、モントリオールで、どの便も必ず1時間ほどの待ち時間があるので、モントリオール駅の構内で、たまたま目に留まった小さなカフェ、バーガーショップも兼用のカフェでした。そこに偶然寄り、ちょっとサンドイッチをほお張ろうと思い寄ったところが、大変お

いしかったのです。すぐにその場で気に入りました。たまた夕方の少しお客の少ない時間帯だったので、店員さんに「おいしかった」と、お礼を言いました。また3日後だったか、帰りにも1時間ほど待ち時間がありますので、またそのカフェに寄りました。今思い出しましたが、「ダーム・ナチュール」(Dame Nature) という名前でした。トロントには夜遅く帰り着きますので、またサンドイッチ類をテイクアウトし、汽車の中で食べました。

4月にモントリオールの駅の構内の「ダーム・ナチュール」に入ったことを自分でも忘れかけていましたが、9月半ばの帰国日を前に、ちょうど8月は大学も夏休みに入り、自分がいただいている研究室を少し留守にしてもかまわない時期でしたので、8月の終わり、モントリオールに行くことにしました。

モントリオール旅行の初日に、その「ダーム・ナチュール」に寄り、またおいしいクラブサンドイッチを購入し、それを持ってホテルにチェックインしました。それから3日、4日間、あちこち見物して回りました。ローレンシャン高原もその時に苦労して行きました。何しろフランス語圏ですので、私は学生時代にドイツ語と英語しか勉強していなかったため、大変困りましたけれど、何とか目当ての観光ができました。

ところでモントリオール初日には荷物がたくさんあったので、サンドイッチを買ってタクシーでホテルに直行したのですが、翌日の市内観光の途中、お昼にわざわざモントリオール駅に寄り、その大好きな「ダーム・ナチュール」でクラブサンドイッチをまた買いました。お昼過ぎでお客が少なかったため、その店員さんに「今日で2度目です」と話

しかけました。「昨日の夕方に寄って、お弁当に買っていったけれど、今日もお昼ご飯にきました。それで2度目です」と言ったのです。「2度目です」と。そしたらその店員さんは「あなたは2度目じゃなくて4度目ですよ」と言われたのです。驚きました。4カ月も前に来ただけです。駅も日本と言えば大阪駅とか東京駅のような本当に大きな駅なのです。当然、旅行者は日に100人、200人ではなく、何千人と、その「ゲーム・ナチュール」を利用しているに違いないのに、なぜ4カ月も前にサッと立ち寄っただけの私たちを覚えていてくれたのか驚きました。と同時に、たいへんうれしく思いました。「ああ、こういう出会いもあるのだな」と思いました。何気ない店員さんとお客のやり取りでしかないわけですが、私はその時、本当に出会いのうれしさというか素晴らしさを感じました。

ちなみに「なぜ、覚えていてくれたのですか」と聞きました。その店員さんは「これほど丁寧にものを言う人はほかにいないから、しっかり覚えているのよ」と言ってくれました。

とにかくこれが契機になって、何気ない人との出会いが非常にうれしい、また、こんな楽しいことはないということに気が付いたわけです。

出会いから希望へ

さて、肝心の私自身の現在の希望を語らな

ければいけないのですが、そもそも「希望」という言葉は難しい。「望み」でも、希望の「希」が付くと美しく聞こえるし、これが願望とか、中には欲望のように「欲」が付くと随分、語感が悪くなるし意味が変わってきます。私自身の今現在望んでいることは、例えば貧乏していると、もっとお金が欲しいとか、そういう欲望は誰にもあるのでしょうか、今、自分が本当に望んでいることは、今までに訪れることができた場所をまた訪れて、そして親しくお話した方々ともう一度お話をしたいということです。私の偽らざる望みであるし、それが自分の希望だと言えます。

おわりに

大したお話はできなかったのですが、こういう何気ない人との出会いも非常にうれしくまたいつまでも忘れない思い出になるのだということ。皆さんそれぞれに何か考えていただく機会になれば、十分に今日お話させていただいた意味はあるのかなと思います。時間も確認せず、お話させていただきましかけれど、日ごろの出会いの中にも一生忘れられない、素晴らしい思い出ができることもあるのだということ考えていただければ、私のお話も少しはお役に立てたのかなと思います。大変拙くて個人的な思い出話をしましたけれども、一生懸命聞いていただき、ありがとうございました。

(社会学部教授)